広報・公聴
企画委答申

市民が主人公の市政への提起

政策形成過程への市民参加

まず市民との信頼関係を

市民が主人公の市政――を基本姿勢に杉本市政が誕生して満一歳の新春をむかえた。

今日は、杉本市長から問題提起されていた「南国市の広報・公聴活動に関する具体案について」広報公聴企画委員会（委員長・東村達夫福祉事務所次長）の答申があったので、これをテーマにみんなで考えてみたいものだ。

市民と市長の対話集会（三和地区公民館で）

市民とともに考える市政

ポチ・広報というのは聞いたことがあるけど、公聴というのはあまり聞いたことがないな。

花子・公聴というのは、広く市民の声を聞くということかな。

太郎・そうだよ。「市民が主人公の市政」を基本姿勢にしているのでね。

花子・例の「聴く市政・話す市政・そして、それに応える市政」を実行しなければね。

ポチ・スローガンでなく、それを実行しなければね。

花子・そこで、市役所の係長さん十人が企画委員会をつくって調査、研究していたのね。

太郎・四月から七ヵ月間、現状と問題点を分析し、そのなかから市民参加の市政づくりについて具体案をねっていたんだ。

花子・ねらいというか、視点はどこなの。

太郎・空洞化、形がい化された憲法、地方自治を守るということかな。戦後、天皇制主権から国民主権の新しい憲法が生れたね。そして、国から独立した団体自治、住民が自らの意志で治める住民自治の原理がうたわれたんだよ。

ポチ・ところが、市町村など地方自治体は三割自治とか、一割五分自治といわれるように、独立した運営ができないような仕組みになっているんだな。市民の税金のうち三分の二は国へ、残りを都道府県と市町村でわけているんだ。もちろん地方交付税、補助金でかえってくるものもあるけどね。

太郎・うん、財源的なものもあるけど、補助金や通達行政とかいって、国の下請的な制度が多いんだね。

そこで、いろいろなむつかしさはあるけど「聴く市政・話す市政そして、それに応える市政」を基本に、市民が何を考え、何を悩んでいるかを知り、市民とともに考え、話し合いながら生き生きとした市民参加の市政をすすめたい。

花子・市民と市政の信頼関係を深めていこうということなのね。

ポチ・市長さんや市のお役人？は雲の上の人ではないということなのかな。ボクたちと一緒になって考え、悩み、いい方向をみんなの英知でさがしていこう。三人寄れば文珠の知恵って昔の人がいってる。

ガラス張りの市政

市政の公開を

花子・市民が考えるには、まずガラス張りの市政、市政をすべて市民に公開することが大切ね。

太郎・そういうことだね。それが広報ということだね。とかく、お役所の広報は一方通行のお知らせや手前勝手なPRといった目で見られがちでね。

ポチ・その点、南国市は一般市民の人が広報委員会をつくって企画・編集している。

太郎・東京の武蔵野市では、大学の先生たちが集って、南国市のような広報市民委員会をつくろうと研究しているね。

花子・それじゃあ南国市の広報委員会は全国でもトップをいっている（笑い）

太郎・ただ、市民の知りたいことをタイミングよく知らす、決ったあとの〝後報〟でなく、「どうしようか」という問題提起、資料、情報を市民に提供して「市民とともに考える」ということを考えないといかんね。

ポチ・クサイものにフタではなく、市政を大胆に公開してほしい。ちょっとむつかしいかな。（笑い）

太郎・答申では、ただ単に広報なんこくの発行だけでなく、広報に対する市民の意見を聞く広報モニター、通信員の設置。議会広報や庁内広報、庁内放送広報。市役所の窓口事務を公開する市民の手びき。パンフレット、日刊新聞などマスコミへの情報提供などを積極的にやるように――。

花子・職員向けの広報というのは「行政のもつ当面の課題、その考え方と方向、将来の展望」などを職員に知ってもらう。

太郎・うん、市民参加といっても、やっぱり職員が市政に参加するというものがなければだめでね。

ポチ・市民参加の前提は職員参加だといってるね。

太郎・市役所の職場が明るくなり、生き生きとした職員が生れることによって、はじめて市民とも仲よく、腹をわって話ができるようになるんだろうね。

市民相談室で

窓口一本化

花子・公聴については――。「市民が何を望み、何を求めているか」をよく知り、それを市政にとり入れていく必要がある」といってるね。

太郎・そこで「個別公聴、集団公聴、調査公聴」など、あらゆる公聴手段をもって市民の声を聴き科学的に分析して施政方針や基本構想など市政に反映するとともに政策形成過程、実施過程への市民参加をすすめるべきだ」と答申している。

ポチ・個別公聴としては、広範囲な市民の要求、要望や苦情、意見を聞く行政相談と法律、人権など各種の専門相談だね。

太郎・行政相談を受ける「市民相談室」をつくるように。これはおそらく四月からになるのかな。市民が市役所へ来て、あっちこっち振り廻され、半日がかりになるのを防ぐため、窓口を一本化しようということだね。

花子・そうすれば、はじめて市役所を訪れる人も、とまどうことがなくなりそうですね。

対話集会や

施設見学会も

太郎・このほか、十二月に行われた「市長への手紙」請願、市民の集る場所への市民の声の箱の設置などが考えられている。

ポチ・集団公聴というのは、市民と市長の対話集会など――。

太郎・うん、いまやっている対話集会、それに婦人会、青年団など各階層別、職能別の対話集会。当面する課題についての住民集会や市民集会、陳情、市の施設を自で見る施設見学会など。

地域エゴは

民主主義の原点

ポチ・最後に調査公聴は――。

太郎・市政について全市的な助言をしてもらう市政モニター、市民の声を聞く市政アンケート、世論調査など、市民の意識調査をして基本計画、実施計画をつくりたいとしているね。

花子・これらは市民の声をどのように聞くかという、市民参加としては初歩的なものなのね。

太郎・市民参加のまえの市民対話ということかな。

どちらかというと、市民の自治意識というのは、まだまだ薄いということでね。都市は自立した一人ひとりの住民が、自らの自治によって創りあげていく、真の住民自治、地方自治へのアプローチといったところかな。

花子・最初には「地域エゴ」というのが随分多いと思うわ。

ポチ・今日一杯のコーヒーがのめれば、あした地球がぶっこわれてもいい。

太郎・でも、エゴイズムは民主主義の原点でね。市民と市民の交流、話し合いのなかで、変っていくものなんだよ。

花子・戦前の隣組ではなく、住民の自主的な集り、町内会・部落会といったコミュニティの育成についても答申があったね。

太郎・市民の自主的な連帯感を高め、住民自治の基本的な土壌を育てたいというのがねらいだね。

ポチ・牛歩の歩みでも、一歩一歩前進してもらいたいものだな。

太郎・市政への市民参加が、すぐできるものでもないだろうけどね。行政が市民の手によって触れることができるものであり、市民の手で動かすことができるということは、すばらしいことだよね。

「市民の市民による市政」について、みんなで力をあわせていきたいものだね。

▼広報公聴企画委員会の答申書は一部残部があります。ご希望の人は企画財政課広報公聴係まで。

●きょうの話題・あすの話題